

## 「十字架につまずき、主の恵みを知る」(2026.6.21)

そのようなことを宣べ伝えれば、

十字架のつまずきもなくなっていたことでしょう。(ガラテヤ5:11)

パウロが去った後、ガラテヤの教会にある人々が入ってきて、パウロを批判し、割礼も必要不可欠であると教え始めた。その影響を受ける者が出てきた。実は私の中にもこの考え～救いは報酬～に共感するものがある。だが、パウロは、この人々を別の福音を告げる者、あなたがたをかき乱す者と断じ、「いっそのこと自ら去勢してしまえばよい」(ガラテヤ5:12)とまで口にする。

どうしてここまで激しく非難するのだろうか。それは「キリストの福音を覆(くつがえ)す」(ガラテヤ1:7)試みだからである。キリストの福音は「律法の実行ではなく、ただイエス・キリストへの信仰によって義とされる」(ガラテヤ2:16)という恵みの知らせだからである。キリストが十字架で私の罪・過ちをすべて帳消しにしてくださった。だから、私に求められているのは、小さな子供となって、キリストを救い主と信じることだけなのである。神様はそれだけを求め、喜ばれ、罪を赦し、神の子としてくださるのである。救いに金銀不要、生贄不要、善行不要である。キリストが全てお膳立てして下さったからである。



パウロは初め教会の迫害者でした。まさに律法の実行によって義とされると固く信じ、呪いの木に掛けられたキリストを信じるだけで救われるなんて言うのは絵空事だった。しかし、復活のキリストに出会い、十字架の意味、その力を知らされた時、「わたしはキリストとともに十字架につけられています」(ガラテヤ2:19)と告白したのだった。十字架につまずき倒れ、信じるだけで救われる主の恵みを知ったのである。信仰、これこそ、人間がエデンの園で失ったものであり、今神様が何にもまして喜ばれることである。

もちろん律法の行いは大切である。でも愛され救われるためではありません。信じて救われ、愛されているからこそ律法を大切にし、行なうのです。